

ベゴニア グリフォン

学名: *B. x hybrida*

種子粒数の目安: 約1,000粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は中庸(0.5mmhos/cm(2:1))を維持する

播種

プラグトレイサイズ: 288 穴あるいはそれよりも大きなサイズのトレイに 1 ペレットを播種する。播種後は、ペレットをしっかりと融解させるため、培地に十分な水を与える。覆土は不要である

ステージ 1 - 発芽には概ね 10 から 12 日を要する

温度: 22-26°C が適正。温度が高い方が、発芽は良好である

光条件: 発芽には光が必要

水分: 発芽時は、水分レベルをウェット(level 5)に維持。グリフォンは、発芽の初期段階において、乾燥にとても影響されやすいので注意する

湿度: 子葉が発生する頃までは相対湿度を 95-97%
※発芽をうまくさせるためには、培地を飽和状態にして相対湿度を高く維持することが重要である

ステージ 2

温度: 21-24°C が最適条件

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: ステージ 2 においては、ウェット (level 5)からややウェット(level4)の範囲で維持する。培地の水分は高目を維持し、水分が均等に行き渡るようにする。苗にストレスがかからないよう注意する

肥料: 発芽チャンバーから出して、5 日目から施肥を開始する。アンモニア態窒素を含む肥料を 50-75ppm の濃度から週に 2、3 回与え、徐々に 100ppm まで上げる。培地の pH は依然 5.8 から 6.2 の範囲で維持する

ステージ 3

温度: 20 から 24°C が最適条件

光条件: 54,000 ルクス(5,000 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルをややウェット(level4)から中位(level 3)の範囲で維持する。苗を枯らせないように注意する。依然、水分を均等に浸透させて、本葉が現れた頃からかん水の合間に少しずつ培地を乾燥させていく。ステージ 2 同様、苗にストレスがかからないよう注意する

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N), EC 値 0.7-1.0mS/cm(1:2))に上げて、週に 2、3 回与える。肥料は、アンモニア態と硝酸態を交互に与える。培地は、pH を 5.8 から 6.2、また EC を 0.7-1.0mS/cm(2:1)で維持

ステージ 4

温度: 18-19°C が最適条件

光条件: 54,000 ルクス(5,000 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを中位(level 3)に下げ、やや乾燥状態で維持する。プラグ育苗の後期においては、過湿を避けた管理を施す。湿度の高い条件では、苗が病気にかかりやすくなるので注意する

肥料: ステージ 3 と同様

PGR(矮化剤)

プラグ生産ステージにおいては、矮化剤は不要

鉢上げから出荷まで

用土

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.4 から 6.0、EC は 1.0mmhos/cm とする

温度

昼間温度: 18-24°C

夜間温度: 16-19°C

照度

32,400-75,600 ルクス(3,000-7,000 f.c.)の範囲とする

日長時間との関係

グリフォンは観葉植物として紹介されているが、日長が 11 時間あるいはそれよりも短日の条件では開花することがある。ただし、11 時間を超える日長条件であれば、開花まではかなりの時間を要し、あるいは着蓄しないこともある

かん水

過湿、過度の乾燥はともに避けるようにする

肥料

プラグから発根確認の 1 週後、迅速にレート 3(175-225ppm(N), EC: 1.2-1.5mS/cm)の肥料を与える。必要に応じて、株の育ち具合を見ながら、バランスを考えアンモニア態と硝酸態の肥料を適宜与える。その際、培地の pH が適正域にあることを確認する

PGR(矮化剤)

基本的に、矮化剤は不要である。必要な場合は、B ナイン(2,500ppm)とサイコセル(300ppm)のタンクミックスを用いる。または、B ナイン(上記の濃度)を単独で与える。いずれの場合も、移植後 2 週をめどに散布する。サイコセルの単独使用は、葉害が誘発されることがあるので避ける。また、ボンザイ、スマジックなども生育不良を引き起こす可能性があるため、注意が必要である

PGR 使用時の注意点

ハウスの立地条件などを考慮し、矮化剤の最適な希釈倍率を決めるための試験を行うことを推奨している。矮化剤の使用にあたっては、注意書きにしたがって適正な使用方法を遵守する

ピンチ

ピンチは不要である

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴トレイ): 約 8 から 9 週

コンテナサイズ	株本数/ ポット・コンテナ	出荷適期までの 週数
10-12cm ポット	1	5-6
15cm ポット	2-3	5-6
20cm ポット	3	7-8
25-30cm ポット	3-4	9-11

病例等

グリフォンは、病気や虫害に強い植物であり、適正な栽培管理と IPM にもとづく管理が施行されている限り、大きな問題は発生しないと考えられる。またグリフォンに関しては、広範囲にわたる殺虫剤の試験が行われており、葉害の発生についてはほとんど確認されていない

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう